

3.4 注目すべき種の分布状況

近年、園芸用に輸入された種や飼料穀物に紛れ込んだ種子の自然界への逸出などに伴って、本来は日本に生息しない国外の生物種が侵入し、自然界へ広がっている例が数多くみられます。

このような人の活動に伴う生物の移動による、国外外来種（シナダレスズメガヤなど）の逸出・定着によって絶滅危惧種（カワラノギクなど）の生育場所が奪われるなどの影響が懸念されています。また、外来種と在来種の交雑によって雑種が形成され、地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失が懸念されています。

ここでは、河川への国外外来種の侵入状況を明らかにするため、国外外来種の確認状況について整理しました。

【国外外来種の河川への侵入状況】

(植物調査、河川環境基図作成調査)

● 河川水辺の国勢調査における新規確認の国外外来植物は9種を確認

平成21年度河川水辺の国勢調査において、アイノコオアカウキクサ、ヒメナデシコ、アケボノセンノウ、イボミキンボウゲ、ホルトソウ、イモネアサガオ、ホソバフウリンホオズキ、ウスゲホオズキ、ナガボノウルシの9種の国外外来種を初めて確認しました。これらの種の導入目的を緑化用、耕作地雑草、牧草用、園芸用、その他に分けて整理しました。その中で、アイノコオアカウキクサの1種はその他で、農業で栽培されていたものが逸出したものと考えられます。これらの種が本来の分布域ではない河川に生育することで、在来の生態系に何らかの影響を与えることが懸念されます。

(資料掲載:3-94ページ)

河川区域において、シナダレスズメガヤやハリエンジュなど、多くの国外外来種がみられるようになり、生態系への影響が懸念されています。

ここでは、河川区域への国外外来種の侵入状況を把握するため、導入目的を緑化用、耕作地雑草、牧草用、園芸用、その他に分けて整理しました。

今回とりまとめを行った30河川で、432種の国外外来種が確認されました。そのうち、アイノコオアカウキクサ、ヒメナデシコ、アケボノセンノウ、イボミキンボウゲ、ホルトソウ、イモネアサガオ、ホソバフウリンホオズキ、ウスゲホオズキ、ナガボノウルシの9種の国外外来種を初めて確認しました。9種の導入目的は、園芸用とその他（農業、薬用、不明）で、その他（不明）が9種中5種を占めました。

地方別にみると、北海道地方2種、中部地方1種、近畿地方1種、九州地方5種となっています。

これらの種が河川で繁茂した場合には、生態系に影響を与えることが懸念されます。生態系を維持するためにも、今後のモニタリングを継続していきます。

新規確認の国外外来種の利用区分

No.	科名	種和名	地方	確認河川	利用区分*
1	アカウキクサ科	アイノコオオアカウキクサ	近畿	淀川（瀬田川）	その他（農業）
2	ナデシコ科	ヒメナデシコ	北海道	常呂川	園芸目的
3		アケボノセンノウ	北海道	常呂川	園芸目的
4	キンポウゲ科	イボミキンポウゲ	九州	筑後川	その他（不明）
5	トウダイグサ科	ホルトソウ	九州	筑後川	その他（薬用）
6	ヒルガオ科	イモネアサガオ	九州	菊池川	その他（不明）
7	ナス科	ホソバフウリンホオズキ	九州	菊池川	その他（不明）
8		ウスゲホオズキ	中部	安倍川	その他（不明）
9	ナガボノウルシ科	ナガボノウルシ	九州	菊池川	その他（不明）
計	7科	9種	4地方	5河川	3型

※利用区分については以下の文献等を参考にした。

- 世界の雑草Ⅰ 合弁花類 全国農村教育協会 昭和62年
- 世界の雑草Ⅱ 離弁花類 全国農村教育協会 平成5年
- 世界の雑草Ⅲ 単子葉類 全国農村教育協会 平成9年
- 神奈川県植物誌 神奈川県立生命の星・地球博物館 平成13年
- 新牧野日本植物圖鑑 北隆館 平成20年
- 日本の帰化植物 平凡社 平成15年
- 日本作物学会九州支部会報 64:34-36 川名義明・児嶋清・住吉正 平成10年
- 転換大豆畑で雑草化するアサガオ類 住友化学株式会社ホームページ
- 跡見群芳譜巻三 花卉譜 跡見学園女子大学ホームページ

その他（不明）については、上記文献等に記載があったものの、利用について明記されていなかったものである。